

An abstract watercolor splash in various colors including yellow, orange, red, purple, blue, green, and pink, set against a white background. The splash is dynamic and fluid, with various sized droplets and blotches scattered across the page.

2027

学校法人 田中千代学園
渋谷ファッション&アート専門学校

文化専門課程 | 美術表現科・表現研究科 入学案内

絵画/日本画/彫刻/版画

「高等教育の修学支援新制度」対象校



美術を志す 全ての人に 学びの場を。

クリエイティブシティとして変貌著しい渋谷の地で、本格的に美術を学ぶことができる場、それが本校のアート専門課程です。新たな文化やトレンドを生み出し続けている渋谷・原宿エリアの中心で、70年にわたりファッション業界に有為の人材を数多く送り出してきた伝統をもつ本校だからこそ、あえて生身の手による創作にこだわり、ファインアートを中心に本格的な美術教育を行う専門学校として2018年にスタートいたしました。美術への想いを持つ方などなたでも歓迎です。これから美術の道に進みたい方、美術の大学・大学院を目指す方、社会人として活躍する傍ら美術創作にチャレンジしたい方、仕事や子育てが一段落し新たな自己実現を美術に見出したい方、もう一度美術を学びたい方など、年齢・経験・国籍を問わず門戸は幅広く開かれています。美術を学びたい方、美術に興味のある方は、ぜひ本校の扉をたたいてみてください。



渋谷ファッション&アート専門学校 校長
志賀健二郎 Kenjiro Shiga

本格的な美術を基礎から学ぶ。



公式サイト/学科・コースについて
shibuya-and.tokyo/art/a-course/



文化専門課程の学び

本校には、美術表現科(2年制)と表現研究科(1年制)という2つの学科、そして絵画・日本画・彫刻・版画という4つのコースがあります。基礎から応用まで段階的に学べるカリキュラムで、生身の手による創作と独自性を磨き、アートで社会に貢献できる人材を育成します。

学科構成

美術表現科(2年制)

- 美術を初めて学びたい ●美術を基礎から学びなおしたい

美術を初めて学ぼうという方、以前美術を勉強したが改めて基礎から学びなおしたいという方のための学科です。1年次(基礎)は、デッサンの初歩から始めます。また、造形力と表現手法の基礎を身につけ、作品を制作し発表することを目標とします。2年次(応用)は、基礎造形力を基盤に、様々な技法や様式を身につけることを目標とします。

表現研究科(1年制)

- 自らの表現を研究し制作したい ●美術表現科を卒業、または同等の実力がある

本校の美術表現科を卒業された方、それと同等の実力があると判断された方が対象です。より難易度の高い手法・技術を身につけ、より個性的な自分だけの表現を確立し、それを深化させていくことを目標とします。

週4日で学ぶカリキュラム

月曜から木曜の週4日制により、集中して学びながら制作時間をしっかり確保。
週末は自主制作や振り返りに充てるなど、無理なく継続できる学習環境を実現します。
授業時間 午前 9:30~12:30/午後 13:20~16:20
総授業時間 年間800時間以上

4つのコース

本校の文化専門課程では、絵画(油彩/アクリルなど)、日本画(岩絵具/水干など)、彫刻(粘土/木/ガラスなど)、版画(銅版画/木版画/リトグラフ)の4つのコースの中から希望のコースを選択することができます。

絵画コース

P.04



油彩/アクリルなど

日本画コース

P.08



岩絵具/水干/顔彩/紙本/絹本/箔など

彫刻コース

P.12



粘土/木/金属/ガラス/テラコッタなど

版画コース

P.16



銅版画/木版画/リトグラフ



あなたにしか描けない
絵の表現を。

平らで無垢のキャンバスに一本の線を引くと大地と空の境界が生まれます。そこに色彩を与えると光に輝く草原や大空が生まれます。さらに筆の運びを工夫すると風や空気の揺らぎが生まれます。

絵を描くことは、「平面」としての画面に自分だけの世界や無限の空間を自由に立ち現わせることが最大の魅力といえるでしょう。そして、その制作過程には多くの驚きや喜びもあります。

モチーフを観察する中で、視点を変えることで多様な表情変化に気が付き驚くことがあるでしょう。パレット上で絵具を混ぜるうちに、思いもよらなかった色彩に出会い心躍ることもあるでしょう。絵具と描き具の組み合わせにより現れる多様な描線は、子どもの時のような純粋に線を導き出すことの喜びを思い出させることもあるでしょう。これらのプロセスの中には、あなたにしか気付くことのできない発見や思考があり、その積み重ねがあなたにしか描けない絵の表現として結びつくのです。





絵画コースの学びについて

絵画コースでは一人ひとりが本来持っている「感性」に寄り添い、それぞれの視点や創造性を呼び起こし、発展させることを基にした学びを目指します。本来「絵を描く」ことは、自分が思ったように自由に何をどう描いてもよいものです。しかし、絵を通して「自分の思いをより強く伝えたい」「共有したい」「もっと人や社会と繋がりたい」と思うことがあるでしょう。その時は自分の中に『絵画』を学ぶための準備ができた証拠です。ここでは、あなたが本来持っている独自の造形的感性とは何かを探りつつ、絵画制作における知識や技術、多様な

表現の在り方を学ぶことでより豊かで堅牢な絵画表現へと高めていきます。いずれにしても絵画の制作は、楽しむことが重要です。そのためにもあなたなりの多くの造形的試みをし、先に述べたような制作の中における思いもよらない発見や喜びを見つけてみましょう。当然、上手くいかず失敗など多くの回り道もあります。しかしその経験こそが「あなただけにしか描けない絵画」への近道となるはず。そして、ここで絵画を学ぶ多くの仲間とともに、作品を制作する感動や喜びを分かち合ひましょう。

画材と施設

画材：
油絵具、アクリル絵具、キャンパス、筆、ペインティングナイフ、パレット、とき油など
他にも画材の手入れや作品を保護するための道具などたくさんの種類がありますが、一度に揃える必要はありません。授業に必要な道具はその都度説明しますので制作の進行に合わせて買い足していきます。

※デッサンで使用する画用紙と木炭紙は事務室で購入できます。

施設：
専用ロッカーの他に教室内に1人1つずつ工具箱を支給、画材の保管が可能。制作中の作品は全て学校内に保管。美術表現科1年次では最大30号、2年次では最大50号の制作が可能。表現研究科では最大130号の制作が可能。(1人につき約2メートルの壁面を使用可)

教員紹介



永井俊一 Shunichi Nagai
イラストレーター
東京藝術大学美術学部デザイン科卒業/株式会社オリエンタルランド勤務 商品デザイン制作・商品アート制作に従事



菊地達也 Tatsuya Kikuchi
洋画家
東京藝術大学大学院修了/サロンドプランタン賞/国展 国画賞、新人賞、準会員優作賞/上野の森絵画大賞展優秀賞/セントラル美術館展大賞/昭和会展優秀賞



清水健太郎 Kentaro Shimizu
画家
工学院大学 電子工学科卒業/武蔵野美術学園 油絵科卒業/武蔵野美術大学 講師/(社)二紀会 会員

学科ごとの学習領域

美術表現科1年次

まずはデッサンやドローイングを通して対象への視点や向き合い方、描画材の扱い方などの「観察・描写」といった描くための基礎を養います。また、油絵を中心とした絵画制作の手始めとして、各種道具の解説や使用法、キャンパスの張り方などから体験します。静物や人体などの多様なモチーフを実際に描き進める中で、油絵具の特性や基本技法、色彩効果、基本的な空間表現などを学びつつ、それぞれの表現意識も高めていきます。

美術表現科2年次

油彩を中心とした基本的な絵画制作における用法や知識を基に、古典から現代までの多様性のある絵画空間や造形的アプローチの制作体験ができます。ルネッサンス期の画家が用いていた「グリザイユ技法」をはじめ、近代以降の「平面化」や「抽象化」「コラージュ・アッサンブラージュ」「シェイプトキャンパス」などの授業を経ることで表現の幅を知る

とともに、素材や技法に対するより高度な知識や経験を身につけます。そして、これらを踏まえたくらみで自分独自の絵画への思考や感性をさらに磨き、一人ひとりに合った絵画表現への足掛かりを構築していきます。

表現研究科

学生自ら打ち出したテーマに沿って研究を進め制作に専念することができます。学生に与えられた個別の制作スペースは個性的で自分らしい絵画表現のさらなる研鑽を重ねる場となります。ここでは制作者としての自立へ向けた指導や、展示発表などそれぞれの目的に合わせたサポートを行っていきます。また、制作期間中や展示の際にはゲスト講師による講評会も行います。コンクールや公募展などの審査では、客観的な目に晒されるのですからその準備ともいえるでしょう。在籍中に個展やグループ展で作品を発表したり、コンクールや公募展に出品する学生も多く、入選者や受賞者も輩出しています。

カリキュラム

- 春季 静物画・細密画
スペースCTCにてコース展覧会開催
- 夏季 技法研究
平面化とマチエール
- 秋季 人物画
人体構成
- 冬季 大型モチーフ
卒業・修了制作

※上記は美術表現科2年次の一例となります。

VOICE 在学生の声

入学してみて感じたこと

いつも先生方からは技術的な事や絵画に対する考え方について、丁寧なご指導やアドバイスをいただいています。また、事務の方々も制作環境を整えるために親身になってサポートしてくださっています。

表現研究科 学生



1.6 美術表現科1年 制作風景 2.4 美術表現科2年 制作風景 3.5 制作風景



日本画の表現の 根底に流れるもの。

古来日本人は自然を神として崇めてきました。それは山や滝、大きな岩や木、路傍の小さな石にさえ手を合わせてきた様子からもうかがえるでしょう。

人の生活に恵みを与え、時として災いをもたらす自然に対する感謝や畏れが、日本人の宗教観や自然観、美意識に大きな影響を与えてきました。雄大な景色から野草の風にそよぐ姿、川のせせらぎの小さな音など、私たちの自然に対する感受性は幅広く強いといえるでしょう。それらからなる美意識は日本画の表現の根底に流れています。

日本画コースでは始めに基礎と考える写生(デッサン)を学びます。まず植物の写生から始め、その観察、構造の把握、描写を通して造形の源となる自然の摂理を学びます。そして自然な形、より良い形を探して描く力を向上させます。

次に風景や人物を描き自然の秩序の不変さを認識するとともにそれらが持つ生命感や強さを表現する造形感覚を養います。自然の形は素晴らしいものです。自分でオリジナルな形を作ろうとしても画一的になり、どうしても自分の癖が出てしまいます。植物の茎一つだけを見ても、その動きや太さなどどれ一つをとっても変化に富んだ美しさを備えています。自然の造形から学び、それを自分の形、表現へと発展させていきましょう。





日本画コースの学びについて

ワークショップ

日本画独自の表現を学ぶワークショップを定期的に行います。揉み紙や絵具の盛り上げ(ほり塗り)、絵具を流したり、垂らし込んだりといった紙や絵具の表現の幅を広げます。また平らに塗る、ぼかすなどの一見簡単そうでも難しいテクニックや、箔を使ったさまざまな表現を一つずつ学習していきます。技術のバリエーションを増やしていく中で、自分に合ったものを見つけ、それが自分らしい表現につながることを願っています。

(平らに塗る、ぼかし、盛り上げ、絵具流し、垂らし込み、箔研ぎ出し、揉み紙、箔揉み紙、箔焼き、砂子、裏彩色、絵を洗う)

絹本制作

日本画では古来、和紙と共に絹(絹本)を支持体として使ってきました。絹は紙に比べてなめらかな表面を持ち、ぼかしや線描に独特な表現ができます。絹の使い方を学習することで、日本画に対する理解をより深めていきましょう。

動物画制作

動物は日本画の重要なモチーフとして描かれてきました。ひとくりに動物といってもその対象は幅広く、犬や猫などの身近な存在から龍などの想像上の生き物にまで及びます。授業では実際に動物園へ足を運び、動物を目の前に写生をして、それをもとに本画制作を行います。日本画のテーマの一つである「花鳥画」の中から発展した「動物」という題材は生命力を放ち、その力強さ、儂さ、愛らしさは描き手を惹きつけてやみません。

毎日クロッキー

授業の最初に各自がモデルになり、10分ポーズのクロッキーを行います。一番身近で様々な表情をみせる人物を題材にすることは、絵を描く力を向上させるのに最も適しているといえるでしょう。人物にはあらゆる絵の基本が詰まっています。毎日の積み重ねで知らず知らずのうちに描く力・観る力が身につけていきます。

画材と施設

画材:

岩絵具/水干/顔彩/紙本/絹本/箔など

施設:

1人1つの制作中に使用できる画材置き。ロッカー完備、作品保管スペース有。表現研究科では100号以上の大作の制作も可能。

教員紹介



武井好之 Yoshiyuki Takei
日本画家

東京藝術大学美術学部絵画科
日本画専攻卒業/東京藝術大学大学院美術研究科日本画専攻修了(修了模写台東区買い上げ)



清水操 Misao Shimizu
日本画家

東京藝術大学美術学部絵画科
日本画専攻卒業/東京藝術大学大学院美術研究科保存修復技術(現保存学)修了/日本美術院特待

学科ごとの学習領域

美術表現科1年次

モチーフの構造を考えながら、丹念に写生をします。そしてそれをもとに、形、構図といった絵を描くための大切な要素をトレーニングしながら制作していきます。また絵具の粒子の違いという個性を持つ岩絵具の独特の使用法、線(運筆)、ぼかし等の日本画の筆や用具の基本的な使用方法も学び、古典模写なども通じて日本画の伝統的な考え方、技術を学びます。

美術表現科2年次

課題ごとの写生は1年次と同様に行いますが、本画制作においてはモチーフからイメージを展開するなど、より自由度を広げた作品も制作します。技法的にはワークショップで学習した絵具の使い方のバリエーション(厚塗り、削る、洗う、重ね方、等)を広げるアプローチをしたり、基底材である紙や絹についても学びながら(多くの種類があり使用方法も多くあります)制

作していきます。画面サイズも1年次より大きいサイズに挑戦し実力をアップしていきます。

表現研究科

日本画の画材の表現方法を研究し、より自由で自分らしい個性的な表現を目指して制作します。表現研究科ではクラス全体としてのカリキュラムは行わず、個人個人の目標に合わせたカリキュラムで制作していきます。学習が進むにつれ自分がやりたい表現がはっきりしてくると思います。そのために必要な技術の習得、習熟を助けします。また大作への挑戦(画面が大きくなると全てのことが小さな画面の制作と異なってきます)や公募展への出品、個展の開催などの目標に合わせたアドバイスや指導を行います。

カリキュラム

春季 植物画

- 校外授業(風景写生)
- スペースCTCにてコース展覧会開催
- ワークショップ(年間を通じて実施)

夏季 風景画

人物画

秋季 動物画、校外授業(動物写生)

構成研究

冬季 卒業・修了制作

※上記は一例。学年ごとに目標値は異なります。

VOICE 在学生の声

学んでいること・楽しかった授業

日本画の基礎や伝統的な技術の方法をしっかりと勉強しています。絹本の制作方法と箔貼りについての技術も勉強しました。昭和記念公園での写生はとても楽しく、創作にインスピレーションを与えてくれました。

美術表現科2年 学生



彫刻を

学ぶということ。

形はどのようにして生まれ、決定されていくのでしょうか。植物や動物など自然の物は、生きるための機能から生じた形を持っています。デザインされた物や芸術作品といった人工的な物も、作者個人にとどまらず、社会・文化など共同体の思考をも反映し、やはりそれではならなかったという形をしています。

しかし、形の背後にある多くの情報や、そのものが抱えている記憶は、見ようとしなければ見えてこないものかもしれません。彫刻を学ぶことは、形がどのようにして決定されていくのかをあらためて見つめ、そこから自分が何を受け取っているのかを知ることに繋がっています。

彫刻コースでは、自身の表現を探究する前に、粘土を使った塑像制作と木彫制作を通して、造形の基礎的な技術を習得します。塑像は基本的に、作品の中心から表面へ向かって量を付け足していく方法です。一方で木彫は、作品の中心に向かって量を削っていく方法です。

対照的ともいえる、これら二つの方法を軸に彫刻を考えます。また、その技術の前提となる、物の形や構造を的確に捉える力を養うために、デッサンを通じて人体など身近な物をよく観察することも重要だと考えています。彫刻の制作では、人体であれば頭部など部分的なパーツから始め、半身像、全身像というように難易度を上げながら技法を学んでいきます。





学科ごとの学習領域

美術表現科1年次

初めて彫刻をつくる方を対象にしたカリキュラムを組んでいます。人間をモチーフにした塑像では、全身ではなく、興味のあるパーツを部分的につくってみるから始めます。モデルの体を観察する中で、凹凸の深さ、有機的な形のつながり、人間の体の構造などを学ぶことを目標としています。

また、彫刻の技術的な面を学ぶには、道具の扱い方を覚える必要があります。教室で扱うことのできるさまざまな素材や道具に触れ、その使い方を習得し、次年度に繋げることができるよう指導していきます。

美術表現科2年次

塑像の基礎を習得している方を対象にしたカリキュラムを組んでいます。1年次と同時期に同じ素材で制作します

が、より複雑な造形力を習得することを目指します。たとえば人体塑像の課題では、全身像に取り組みます。全身像は、立つ、座るなどの姿勢、体の内部の動勢を捉え、作者が再構築していく力が必要になります。これにより、作品の構成を積極的に構築する力を身につけ、自主的な制作に役立てていきます。

表現研究科

学生自身が探究したい課題を見つけ、自主的に制作を進めます。学生のより個別的な制作に寄り添った指導をしていきます。また、1年次・2年次の学生と同じ教室での制作になります。他の学生のアイデアや制作方法に接することによる相互の学びは、一人で行う制作では得られない貴重な経験となることでしょう。

カリキュラム

春季 空間造形

人体塑像・型取り演習

スペースCTCにてコース展覧会開催

夏季 木彫

テラコッタ

秋季 人体塑像

冬季 卒業・修了制作

※上記は一例。学年ごとに目標値は異なります。

VOICE 在学生の声

入学してみて感じたこと

美術表現科入学時は、はじめに美術全般の授業があり勉強になった。制作中には先生方から種々の貴重なアドバイスをもらった。クラスには多様な人物、作品があり刺激になっている。

表現研究科 学生

彫刻コースの学びについて

工房制について

大型の立体作品などは、制作工程が長い上、途中での移動が難しいため、作業場所を固定しておく必要があります。そのため工房制という方式で行い、2学科が同じ工房で学びます。題材は共通としながらも、各年次の課題に応じて技術の学びを深めていきます。

人体像をつくる

この授業では、モデルを観察し、人間の身体の骨格や筋肉の構造を理解しながら制作に取り組みます。たとえば立像制作では、全身の形を統一的に捉えながら、「立つ」という、体が重力に抵抗する力のあり方や、それを塑像でいかに構築するかという点から人体について考えます。

石膏型取りの授業

粘土でつくった塑像作品はそのままでは壊れやすく保管できないため、塑像を制作した後に石膏で型取りして、粘土から石膏の像に置き換える技術を学びます。塑像の制作工程では、外側の形しか見ることができませんが、型取

りの工程では、粘土を抜き取った後の作品内側の形を見ることができます。粘土のポジティブな塊があったところが反転し、同じ分量のネガティブな空間を見ることになります。この経験は、物体と空間の関係について認識を深めることになるでしょう。

空間造形の授業

針金やガラスなどを用いた授業で、はんだ付けの技術が習得できます。線材を用いて立体をつくることにより、輪郭線で把握する平面的な見方から、空間を意識した立体的な見方が自然にできるように導いていきます。

木彫

製材された樟から、鑿(ノミ)、鋸(ノコギリ)などの道具を使って形を削り出していきます。自然の一部である木に触れ、木材の特徴を生かした作品制作を目指します。初めて彫刻をつくる方でも、今までの経験を立脚点にした作品制作ができるように、木彫課題は自由なテーマで制作しています。

画材と施設

画材:

粘土、木、ガラス、テラコッタ、針金など。材料・道具は学校で一括購入し、販売しているものもあります。

施設:

床面積104㎡の工房
防音・防塵対策/陶芸窯/等身大全身像などの大作の制作が可能/チェーンソーや鋸など共有備品あり。ロッカー完備、作品保管スペース有。

教員紹介



工藤里紗 Risa Kudo
彫刻家

武蔵野美術大学造形学部彫刻科卒業/東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了



宮原高広 Takahiro Miyahara
彫刻家

東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程修了



鈴木亘彦 Nobuhiko Suzuki
彫刻家

東京造形大学造形学部美術学科美術Ⅱ類(彫刻)卒業



1.2.3.4 美術表現科 制作風景



作品制作の源泉となる

造形力発想力を養い、

版を通して自身の絵を探る

ものをつくる、かたちを描く、美術はなにかを伝えるために生まれました。やがてそこには様々な技術と方法が備わり表現としての作品が育ちます。自身の思うように描いてゆく直接技法の絵画とは異なり、間接技法の版画には素材と工程が介在することで思いがけない絵が現れることがあります。

版画には、これまでの経験では出会えなかった絵の表情や発見が待っています。伝統的な版表現技法である「銅版画」「木版画」「リトグラフ」の3版種を様々な技法や異なるサイズで1年間を通して学び、自身の表現に合った制作につなげてゆきます。版画制作には銅版とリトグラフのプレス機、腐食製版設備などの工房が必要となります。そのため、版画コースでは工房制での授業となります。

「美術表現科1年次・2年次」「表現研究科」の異なる経験の学生が同じ工房で各自の課題や研究に応じた制作に取り組みます。初めて版画に触れる皆さんには版画の歴史や技法解説から始まり、3つの版種の基礎を徹底して指導し自身に合った版画作品制作に繋がるよう相談しながら共に考えてゆきます。既に版画制作を続けている皆さんには現役の版画家・美術大学講師が独自の専門的な技法と連続した作品制作についての指導を行います。

書籍や印刷と近い出自を持つ版画作品は美術作品としてだけでなく、絵本や装丁・挿絵などへの展開につながることも多く、新たな制作と発表の可能性が広がることでしょう。





版画コースの学びについて

工房制

版画制作にはプレス機、腐蝕製版設備などを擁した工房が必要となります。そのため工房制での授業となります。2学科の異なる経験の学生が同じ工房で、課題や研究に応じた制作に取り組みます。技術の向上も必要ですが、重要なことは共同の工房制作の中で見えてくる他者と自身の考え方や作品の捉え方の相違です。そのような経験を積む機会としての工房でありたいと考えています。

銅版画

タブレットでドローイングするようになった現代、それに歯向かうように、

手を汚しながら仕上げていく銅版画は、「つくる」という感覚を強烈に実感できます。反面、その技法とテクスチャーにより画面は魅力となりますが、それだけでは表現には至りません。魅力あふれる技法に溺れることなく、それを使い描き、それぞれの世界・イメージの確立を目指します。

木版画

最も古い版画形式である木版画は多色浮世絵版画として内外に広く知られています。伝統技法に加えて現代の版画作家たちが考案し試行してきた表現技法を自身の作品に活かした制作を目指していきます。現代の技法により水性

木版画ならではの紙を染める美しい色彩と描くような自在な表現、従来の木版画では表現できなかった絵画的な表情を持つ木版画が得られます。

リトグラフ

「平版」とも呼ばれ平らな版の上に描いたものがそのまま印刷できることから、多くの芸術家たちが表現方法として活用してきました。油性インクの色彩の重なりは作り手の絵画世界を見事に表現してくれます。また写真などを活用した版表現も可能です。リトグラフを通して描くことを根本から考え、制作工程によって作品を構造的に見つめる機会を得ることでしょう。

教員紹介



木村繁之 Shigeyuki Kimura
版画家

多摩美術大学大学院修了/文化庁在外研修員としてイギリス・ロンドンで制作〜'96/装丁・装画、新聞挿絵、絵本など多数制作/個展、美術館展示多数



今井庸介 Yosuke Imai
銅版画家

武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業/武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻版画コース修了/他展覧会、受賞歴多数



近藤英樹 Hideki Kondo
美術家

武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻版画コース修了/ハーフ王立美術アカデミーに研究生として在籍〜'04/他展覧会、受賞歴多数

学科ごとの学習領域

美術表現科1年次

前期4月から午前午後を通して美術大学版画科同様のカリキュラム(1版種4週間の)集中講座を組み、版種ごとの担当講師がリトグラフ・銅版画・木版画の3版種、計12週続けて各版種の基礎を指導します。既に版画経験のある方も同様の授業を行います。後期9月からは前期同様に各講師の指導のもとで自身の絵画表現に合う版種を選び制作を続けます。

美術表現科2年次

3版種の基礎を習得した2年次は自身を求める版画技法の専門性を高めてゆきます。作り続ける人の土台となるよう、自身の可能性を探りながら造形力の根を育てます。そのためのしっかりとした技術力を身につけてゆきます。作品ごとに版種を選択しての制作、異なる版種を並行しながらの制作を試みます。また、

版画作品だけではなくアーティストブック制作、発表のための展示額装研究、美術大学学部、大学院受験を目指す学生には年間を通して希望大学に対応した受験に必要な作品制作、ポートフォリオ制作、面接・論文などの指導を行います。

表現研究科

美術表現科を卒業し版画技法を習得された方や既に版画制作を続けている方、専門版種を深く研究したい方には個々の制作計画を組みます。技術の向上も必要ですが、重要なことは共同の工房制作の中で他者と自身の考え方や作品の捉え方の相違を考えることです。社会の中の作品であること、そのような経験を積む機会としての工房でありたいと考えています。また、個展開催や版画コンクールへの制作アドバイスも行います。

技法と施設

技法: 銅版画/木版画/リトグラフ。基本的なインクや紙は学内で販売しています。

施設: 銅版画プレス機2台(170×80cm、90×45cm) リトグラフプレス機3台(74×62cm、70×55cm、105×75cm) 制作用机14台(180×90cm) 腐蝕室/シャーリング/大型アクリルボックス/マップケース9台

カリキュラム

- 春季 ドローイング・リトグラフ
スペースCTCにてコース展覧会開催
- 夏季 銅版画・木版画
合同講評会
- 秋季 版画によるコラージュ
選択版種による制作
- 冬季 全国大学版画展
合同講評会
卒業・修了制作

※上記は一例。学年ごとに目標値は異なります。

VOICE 在学生の声

入学を検討中の方へメッセージ

制作活動は人を元気にする力があると思います。刷った紙をめくる瞬間はドキドキし、予想外の作品に仕上がっていく工程がとても楽しいです。日常生活から少し離れたステキな時間が過ごせますよ!

表現研究科 学生

Campus Life

キャンパスライフ

年間スケジュール

■ 学事 ■ 授業 ■ 展示 ※前年度までの内容です。2027年度は変更の場合もあります。

4 April

- 入学式
- オリエンテーション
- 健康診断
- アート教員展

5 May

- 屋外スケッチ
- 版画コース作品展

6 June

- 彫刻コース作品展
- 絵画コース作品展
- 日本画コース作品展

7.8 July / August

- 夏季休業
- 陶芸 (選択授業)
- 学生個展

9 September

- 美術館作品鑑賞 (選択授業)

10 October

- 学園祭
- 学園祭作品展示
- 学園祭観客賞展

11 November

- 個人面談
- 屋外スケッチ
- 校外授業
- 全国大学版画展

12 December

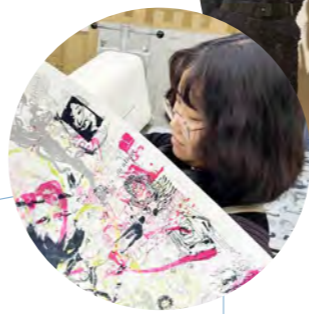
- 冬季休業
- 卒業・修了制作 計画表作成
- 絵画コース作品展

1.2 January / February

- 卒業・修了制作
- 版画コース講師展

3 March

- 卒業式
- 春季休業
- 卒業・修了制作展
- 彫刻コース作品展



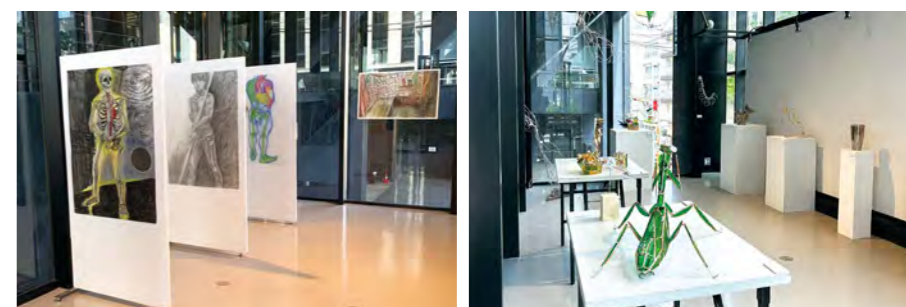
5月/11月 屋外スケッチ



スペースCTCでの作品展

学内に併設されている「スペースCTC」では、年間を通して個展・グループ展など様々な作品展を開催しています。

この空間に自分の作品を並べてみると、教室や工房で制作していた時には気付かなかった良い点や反省点が見つかることもあり、学生にとって展示・発表する機会はとても重要です。





授業について

1年次の共通授業

美術表現科の1年次には、各コースの学生が合同で同じテーマやモチーフを用いた課題に取り組む「共通授業」があります。それぞれの課題を通してどのコースにも必要な「美術表現の基礎力」を養います。基礎力の強化は、これから美術を学ぶ人にとってはもちろんですが、経験者にとっても大切です。現在の自分のレベルを確認し、習得した技術を継続させる手助けにもなります。

共通授業の例

人体デッサン (部分の構成・全身)

デッサンの基本的な知識・手順を学びます。人体各部を様々な角度から観察、描写することで、画面構成についても学びます。また、全身のデッサンでは、人体のプロポーションを理解し構造的に表現することを目指します。

静物着彩

教室に設置された大型の構造物をモチーフとしたドローイングや着彩作品制作を通して、独自の視点による取材力を養うとともに、画面構成や色彩、イメージの展開など造形的発想力もさらに高めます。

専門講座と選択授業

共通授業の他にも、美術全般の知識や表現の幅を広げる講座・授業を用意しています。

人体デッサン (表現研究科)

表現研究科の学生を対象に基礎演習を補うことを目的として人体デッサンの機会を設けています。月1回、定期的開催しモデルは女性・男性・ヌード・着衣などバランス良く予定されており、各々の制作に生かされています。

著作権などについて

制作した作品を発表するにあたって注意すべき著作権や肖像権などについての理解を深める講座です。

美術館作品鑑賞

優れた芸術作品を鑑賞し、作品制作への刺激とすることを目的とした授業です。事前学習を通して深い鑑賞の方法を学びます。
※夏季休業中に行う選択授業です。



塑像

外観を輪郭的あるいは表面上の質感のみで捉えるだけでなく、物の構造や量感、内部で動いた力の方向性と表面の質の関係などに着目する授業です。平面作品の制作だけでは得られない気づきがあります。

色彩構成

作品制作の際に色彩をコントロールする知識を養うことを目標としています。色相・明度・彩度など色に関する知識を深めることは、作品意図を伝えるための表現の幅を広げます。

額装について

キャンパス作品の仮額の作り方をはじめ様々な額装仕様や展示に関わる道具の説明による体験型の講座です。

作品名について

作品に題名を付ける際の考え方を、新旧の芸術作品に付けられた作品名を基に分類して考察する講座です。

陶芸制作

陶芸の基本となる「手びねり」「タタラ作り」など粘土の成形技法を学び、立体造形を制作します。素焼き生地に多色的な絵付けをして作品に仕上げ、10月の学園祭で展示します。
※夏季休業中に行う選択授業です。

施設・設備



本校校舎は、JR・私鉄各線の渋谷駅、地下鉄明治神宮前駅から徒歩8分ほどの場所に立つガラス張りのモダンな建物です。明治通りから青山方面に向かうこのエリアは、学校やギャラリーなどが立ち並ぶ落ち着いた雰囲気の一部です。学内には大作が制作できる「アトリエ」、彫刻や版画のための「専用工房」、講義を行うための「小教室」や自由に使用できる「ライブラリー」など授業を行うための施設、休憩のための「学生ホール」や「ウッ

ドデッキテラス」、各自の「専用ロッカー」もあります。また、学生や教員によって展覧会ができる本格的なギャラリーとして「スペースCTC」が設けられています。ギャラリー内には可動式の展示壁面やスポットライトが設置、立体作品用の展示台なども用意されています。全面ガラス張りで見通しも良い開放的な空間は、他に類を見ない好環境となっています。

- 1 自習でも使用できる石膏像
- 2 ライブラリー
- 3 専用のロッカー
- 4 ウッドデッキテラス
- 5 スペースCTC
- 6 PCスペース

美術専科

附帯教育

金曜・土曜の週2日通学
(夏季・冬季・春季休業あり)

授業時間9:30~16:20
(昼休み12:30~13:20)

3つのコース

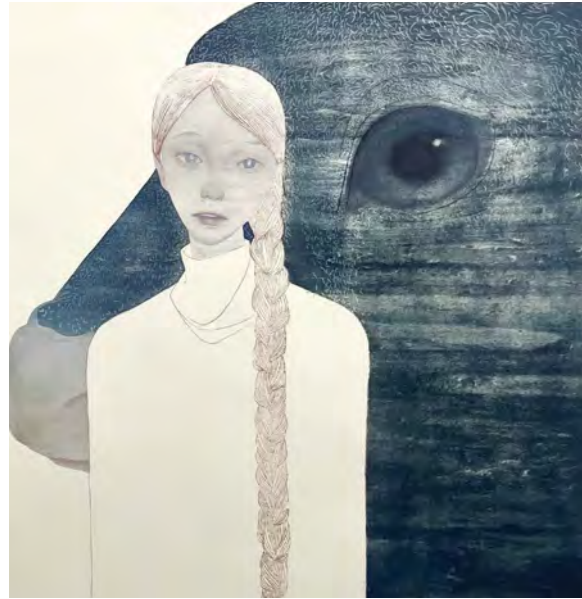
美術専科には、「絵画」「彫刻」「版画」の3つのコースがあり、経験豊富な教員による指導と充実した施設・設備のもと、美術の基礎から様々な技法を用いた作品制作までを、安心して本格的に学ぶ事ができます。面接による入学選考があります。

金曜と土曜の週2日間、
美術の基礎から
大型作品制作まで

詳しくは、公式サイトをご確認ください
shibuya-and.tokyo/art/a-2days/

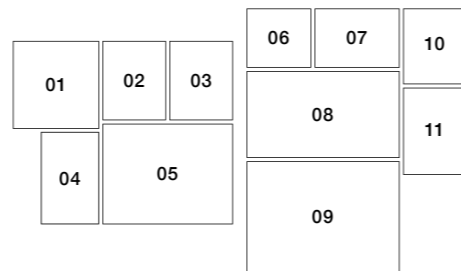


作品集 美術表現科1年



01「遠くからの遅い声」PENG SUOLANGE (版画)
 02「夢解き」YANG YAN (絵画)
 03「トイレの世界」LI PENGXUAN (絵画)
 04「夢の木に休もう」HUANG SHIN HAN (日本画)
 05「行き来するものたち」CHEN ZHAOYIREN (日本画)

06「ファッションフレーム」MA YUAN (彫刻)
 07「10月の公園」GUO SUPING (版画)
 08「獲物」XU KE (彫刻)
 09「はざまに」QI XIAOHANG (日本画)
 10「人物画」TENG LINGYU (絵画)
 11「シャワー」FU TIANSHU (絵画)



作品集 美術表現科2年



01 「游园地」 ZHAO JINGJIE (日本画)
 02 「自意識」 YOU ZIYING (版画)
 03 「春さざす」 矢島 利恵 (版画)
 04 「a falling dream」 NAN RUNHANG (絵画)

05 「映りゆく影」 KAI XINYU (絵画)
 06 「放送」 GUO XIAOHAN (絵画)
 07 「幻夢」 FANG JIAYI (日本画)
 08 「演奏する人」 FENG JIAJUN (彫刻)
 09 「どこへいくの」 YANG RONGRONG (日本画)
 10 「人」 LEI SIQI (彫刻)
 11 「髪の宴」 SANG MENGYAN (版画)

01	02	05	06
03	04	07	08
		09	10
			11



01 「林檎」山下 雅己(彫刻)
02 「見えない目」ZHANG HANLI (日本画)
03 「風の住む街」青木 富代(絵画)
04 「chou chou II」大倉 宗一(絵画)

05 「広場の音楽」三浦 靖子(絵画)
06 「Spiral C405」藤木 雅彦(絵画)
07 「O・K・G・D」長村 隆(彫刻)
08 「別の、同じ」CHEN YUDIAN (版画)
09 「N」GUO YUERU (日本画)
10 「仮面群」LI SHIYI (日本画)

01	02	05	06
03	04	07	08
		09	10

& SHIBUYA FASHION ART COLLEGE

渋谷ファッション&アート専門学校

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-21-7
TEL 03-3409-2661 (代表)
FAX 03-3409-4811
E-mail art@shibuya-and.tokyo

渋谷ファッション&アート専門学校
学校公式Webサイト

<https://www.shibuya-and.tokyo/>



服飾専門課程
ファッション総合科

<https://www.shibuya-and.tokyo/fashion/>



建築専門課程
建築クリエイター科

<https://www.shibuya-and.tokyo/architecture/>



文化専門課程
美術表現科・表現研究科

<https://www.shibuya-and.tokyo/art/>



交通アクセス

- 各線 渋谷駅 [宮益坂口] 徒歩8分 / 山手線・埼京線・銀座線・半蔵門線・田園都市線・井の頭線
- 東京メトロ 渋谷駅 [B1出口] 徒歩3分 / 東急東横線・副都心線・半蔵門線・田園都市線
- JR原宿駅 [表参道口] 徒歩10分 / 山手線
- 東京メトロ 明治神宮前駅 [7番出口] 徒歩8分 / 千代田線・副都心線
- 東京メトロ 表参道駅 [B2出口] 徒歩10分 / 千代田線・銀座線・半蔵門線



Google Maps

発行年 2026年3月

© 2026 SHIBUYA FASHION & ART COLLEGE

